— 観 察 記 録 —

2015 年秋に北海道に飛来した野生のチュウカナダガン *Branta canadensis parvipes* の記録

佐藤ひろみ*

〒 003-0803 北海道札幌市白石区菊水 3 条 5 丁目 2-1-309

(2016 年 12 月 26 日受付；2017 年 11 月 29 日受理)

キーワード：チュウカナダガン, *Branta canadensis parvipes*, 野生, 北海道, 迷行.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2018

Hiromi SATO*. A record of a Wild Lesser Canada Goose *Branta canadensis parvipes* from Hokkaido. Jpn J Ornithol 67: 143–147. (2018)

Key words: Lesser Canada Goose, *Branta canadensis parvipes*, Wild, Hokkaido, Accidental visitor.

UR Kikusui 3jyo 1-309, Kikusui 3-5-2, Shiroishi-ku, Sapporo, Hokkaido 003-0803, Japan

1. 種名・観察個体数：チュウカナダガン *Branta canadensis parvipes* 1 羽

2. 観察者名：佐藤ひろみ

3. 観察日時・場所：2015 年 10 月 12 日 6 時 15 分，北海道千歳市根志越遊水地（42°52'25"N, 141°39'48"E）。以降，10 月 13 日，26 日，27 日，29 日，11 月 1 日に根志越遊水地や付近の畑，長都沼で計 6 回観察した。

4. 観察距離：根志越遊水地では約 200–300 m の距離から 10 倍の双眼鏡及び 30 倍の望遠鏡を用いて観察した。10 月 13 日は採食のため付近の畑へ移動した折に約 100 m の距離から観察・撮影した。

5. 観察した環境：根志越遊水地は千歳川の流域にあり，現在，洪水対策のために北海道開発局が建造中の遊水地 6 か所のうちのひとつである（舞鶴遊水地は完成済み）。近隣にはガン類やハクチョウ類の渡りの中継地として知られている長都沼がある。根志越遊水地は 2012 年から掘削が始まり，掘り下げたエリアに水が溜まって広い開水面ができ，春・秋季に多数のガン類やハクチョウ類が飛来するようになった。開水面の周囲にはオギ *Miscanthus sacchariflorus* やオオヨモギ *Artemisia*

montana 等が生えている。遊水地周辺に散在している乳牛の飼料用デントコーン畑は収穫した後で，ガン類が好むデントコーンの落ち穂が残っていた。

6. 形態に関する記述：カナダガン *B. canadensis* またはシジュウカラガン *B. hutchinsii* の仲間（以下，カナダガン類と表記）を思わせる黒い頸，黒い頭，白い頬，黒い足，焦げ茶色の胴体で，大きさは周囲にいたオオヒシクイ *Anser fabalis middendorffii* より小さくスリムで（図 1），マガン *A. albifrons albifrons* よりかなり大きかった（図 2）。翼長はマガンより長く（図 3），オオヒシクイより短かった（図 4）。頸はマガンより長く，オオヒシクイより短かった。嘴は黒く薄く，頭の三分の一くらいの長さでやや長めに見え，マガンとほぼ同長だった。頭は前頭部でやや上に凸で，全体的に丸みを帯びていた。左右の頬の白斑は頸の下でつながっており，これを分断するような黒い羽毛はほとんど無かった。頸と胸の間に白い首輪はなかった。胸は淡い褐色で脇は褐色だった。肩羽は細く先端に丸みがあり，外縁に淡い茶色の細い縁どりがあつた（図 2）。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：日本で記録のある亜種シジュウカラガン *B. h. leucopareia* と亜種ヒメシジュウカラガン *B. h. minima* はマガンより体が小型である（Madge & Burn 1988; Reeber 2015）が，

* E-mail: aureola@ac.auone-net.jp

doi:10.3838/jjo.67.143

JOI:JST.JSTAGE/jjo/67.143

図1. 千歳市根志越遊水地で観察されたチュウカナダガン（右から2番目、オオヒシクイと共に）（2015年10月12日，撮影：佐藤ひろみ）。

Fig. 1. Lesser Canada Goose (second from the right) with Bean Geese, Neshikoshi retarding basin, Chitose City, Hokkaido, on 12 October 2015 (Photographed by H. Sato).

図2. チュウカナダガンの肩羽が細く，先端の形に丸みがある（マガンと共に）（2015年10月12日，撮影：佐藤ひろみ）。

Fig. 2. Lesser Canada Goose (juvenile scapulars, narrow and round-tipped) with Greater White-fronted Geese, Chitose City, Hokkaido, on 12 October 2015 (Photographed by H. Sato).

本個体はマガンよりかなり大型であり，このことから本個体は亜種シジュウカラガンや亜種ヒメシジュウカラガンではなく，日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 2012）PartAに記載のない種カナダガンではないかと推測された。

カナダガン類は体格，大きさ，頸の長さ，白首輪の有無などからその種や亜種を識別するが，単独でいる場合，特に中型亜種の識別は困難であり，頭の形，嘴の形や長さ，胸や腹の体色など多くの特徴によって同定する必要がある（Reeber 2015）。亜種オニカナダガン *B. c. maxima*，オオカナダガン *B. c. moffitti*，ナイチカナダガン *B. c. interior*，カナダガン *B. c. canadensis* は，いずれもオオヒシクイ

図3. 飛翔するチュウカナダガン（中央下，マガンと共に）（2015年10月12日，撮影：佐藤ひろみ）。

Fig. 3. Lesser Canada Goose (lower the center) in flight with Greater White-fronted Geese, Chitose City, Hokkaido, on 12 October 2015 (Photographed by H. Sato).

図4. 飛翔するチュウカナダガン（中央，オオヒシクイと共に）（2015年10月29日，撮影：佐藤ひろみ）。

Fig. 4. Lesser Canada Goose (center) in flight with Bean Geese, Chitose City, Hokkaido, on 29 October 2015 (Photographed by H. Sato).

と比較して，翼長が同程度であるので（表1），除外できる。一方，ヒメシジュウカラガン，シジュウカラガン，コカナダガン *B. h. hutchinsii* は，マガンに比較して，露出嘴峰長と翼長のいずれも短い（表1）ので，除外できる。そこで，これらを除いたチュウショウカナダガン *B. h. taverneri*，チュウカナダガン，クロカナダガン *B. c. occidentalis*，オオクロカナダガン *B. c. fulva* の4亜種と本個体の形態をより詳細に比較，検討した。亜種オオクロカナダガン，クロカナダガンは胸の色が褐色－暗褐色なので（Reeber 2015），胸の色が淡褐色の本個体（図2）とは異なる。亜種チュウショウカナダガンの嘴は厚く，嘴峰から前頭部への角度が平

表 1. カナダガン類の亜種と計測値. 数値は Madge & Burn (1988) から, *¹ は Reeber (2015) から引用した.
Table 1. Measurements of subspecies *B. canadensis* and *B. hutchinsii* (based on Madge & Burn (1988), values with *¹ are based on Reeber (2015)).

種名 Species name	シジユウカラガン <i>B. hutchinsii</i>				カナダガン <i>B. canadensis</i>				マガン <i>A. albifrons</i>	ヒシクイ <i>A. fabalis</i>
亜種名 Subspecies name	<i>minima</i>	<i>leucopareia hutchinsii</i>	<i>taverneri</i>		<i>parvipes</i>	<i>occidentalis</i>	<i>fulva</i>	<i>canadensis interior</i>	<i>albifrons</i>	<i>middendorffii</i>
和名 Japanese name	ヒメシジユウカラガン	シジユウカラガン	コカナダガン	チュウシヨウカナダガン	チュウカナダガン	クロカナダガン	オオクロカナダガン	カナダガン	マガン	オオヒシクイ
体重 (g) Weight	1590	2270	2270	♂ 2606 ♀ 2421* ¹	2730	3800	4200	♂ 4880 ♀ 4390	♂ 2290 ♀ 2042	4600* ¹
露出嘴峰長 (mm) Bill	26–32	31–36	31–39	♂ 34–42 ♀ 32–40* ¹	36–49	41–48	45–60	48–65	39–50	64–81
翼長 (mm) Wing	330–370	358–405	350–408		410–442	395–460	432–513	450–550	393–444	440–558

坦である。それに対して亜種チュウカナダガンの嘴は長く薄く、やや反った嘴峰をもち前頭部への角度が急である (Reeber 2015)。本個体はマガンとほぼ同じ長さの薄い嘴をもち、嘴峰から前頭部への角度が急なので、チュウシヨウカナダガンとは異なり、チュウカナダガンに一致する。以上の理由から本個体を種カナダガンの亜種チュウカナダガンと同定した。本個体は、肩羽は細く先端に丸みがあり、外縁に淡い茶色の細い縁どりがあるので若鳥である (Reeber 2015)。なお、各亜種の和名は黒田・森岡 (1980) による。

9. 観察した行動：10月12日6時15分に根志越遊水地で罾をとっている本個体を発見した。10 cm ほど浅く水が湛水したエリアで本個体はオオヒシクイ 55 羽、オオハクチョウ *Cygnus cygnus* 5 羽と休息していた。6時20分にオオヒシクイと共に飛び立ったので後を追ったところ、3 km ほど離れたデントコーン畑でオオヒシクイ 500 羽、マガン 60 羽と共に採食している本個体を発見した。10月13日7時30分にも同じデントコーン畑で採食していた。10月26日5時50分に根志越遊水地で本個体を観察、6時30分オオヒシクイと共に飛び立った。その後7時10分に千歳市都のデントコーン畑でオオヒシクイ、マガン、オオハクチョウと共に採食中の本個体をみつけた。27日5時30分、根志越遊水地から北東へ3 km のところにある長都沼にてオオヒシクイ等と共にいる本個体を見た。29日7時50分、長都沼横の麦畑にオオヒシクイ 200 羽ほどの群れと共にいる本個体を見た。11月1日6時20分、長都沼にいた本個体を観察した。いずれも早朝、日の出前後に罾を飛び立ち、デントコーン畑や麦畑へ移動し採食していた。日中は遊水地等の草本が倒伏した場所で休息、羽繕いなどしていた。

10. 写真の有無：有り (図 1–4)。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：2006 年春に北海道へチュウカナダガンが飛来したという記録がある (Ikawa & Ikawa 2011)。しかし、著者は表題に “Probable Wild” として野生個体であることについて検討の余地を残していた。

13. その他：カナダガン類について近年分類の見直しがあり、多くの研究者が 2 種 12 亜種 (うち 1 亜種絶滅) に分類している (Crochet et al. 2010; Reeber 2015)。すなわち、種カナダガンを大–中型の 7 亜種に、種シジユウカラガンを小–小型の 4 亜種にまとめた (表 1)。種シジユウカラガンの

絶滅亜種であるコシジュウカラガン *B. h. asiatica* は *B. h. leucopareia* のシノニムとされている (Reeber 2015). 日本鳥類目録でもこの分類体系を採用し、改訂第7版 (日本鳥学会 2012) は種シジュウカラガンを種カナダガンとは別種としている。

14. 考察: 本来、チュウカナダガンは北アメリカの中央アラスカから北部中央カナダで繁殖し、太平洋側の中中部アメリカへ越冬のため移動する (Dunn & Alderfer 2011). しかし本個体は、その年生まれの若鳥のチュウカナダガンで、迷行して本来の越冬地ではない日本へ飛来したと考えられた。

これまで日本においてチュウカナダガンの記録は井川らの報告 (Ikawa & Ikawa 2011) がありチュウカナダガンとしての同定は正しいと考えられるが、日本鳥類目録改訂第7版 (日本鳥学会 2012) Part A に記載がなく、Appendix B に検討中の種・亜種として記載されている。検討中とされた理由は、著者が表題に“Probable Wild”として野生化個体であることについて検討の余地を残しているためである (池長ら 2014). このため、野生のチュウカナダガンとして詳細な検討をした記録が必要と判断し本観察記録をまとめた。

筆者の観察記録にくわえて、北方の宮島沼でも10月10, 11, 15日に牛山克巳氏がマガンより大型で頸と胸の間に白い輪のないカナダガン1羽を確認している (電子付録1). その宮島沼と根志越遊水地は60 kmほど離れているが、1999年3月に発信器付きの標識オオヒシクイがサロベツと長都沼間約300 kmを往復した記録があり (水の駅「ビュー福島潟」2001), 両地点を往復したとしてもおかしくはない。その後11月6日ウトナイ湖でオオヒシクイと行動を共にする頸と胸の間に白い輪のないオオヒシクイと同大またはやや小型のカナダガンの写真が、ウトナイ湖サンクチュアリのホームページに掲載されている (<http://wbsj-utonai.blog.jp/archives/2015-11.html>). ただし、ホームページではシジュウカラガンとされている。そして、新潟県の福島潟でもシジュウカラガンより大型のカナダガン1羽が11月17日から12月2日にかけて計5回観察され (水の駅「ビュー福島潟」私信), 環境省の監視下にあった (加藤ゆき私信). 翌2016年3月16日北海道夕張郡長沼町の舞鶴遊水地で、オオヒシクイと行動を共にするシジュウカラガンより大型のカナダガン1羽を筆者は確認した。その後サロベツでは4月16日, 22日に井川マリジョ・浩氏が、5月3日に富士元寿彦氏がカナダガン1羽を撮影している (電子付録

2). この写真から頸と胸の間に白い輪はなくオオヒシクイより小さく見えることがわかる。これらのカナダガンはチュウカナダガンである可能性が高い、あるいはチュウカナダガンである。このように野生のガン類と行動を共にしたカナダガン1羽が根志越遊水地・長都沼・宮島沼・ウトナイ湖・福島潟・舞鶴遊水地・サロベツにて観察・撮影された。これらの地点はガン類の渡りの中継地である。

これらの観察個体が同一個体とすれば、秋季に南下して越冬地に至り、越冬後、春季に北上した渡りの行動は野生のガン類として矛盾しない。本個体とIkawa & Ikawa (2011) の個体の記録時期と移動状況は、自然渡来個体の移動として不自然ではない。

一方、特定外来亜種のオオカナダガンが富士山周辺の野外で繁殖しており、その適正管理に関する活動が報告されている (神奈川県自然保護協会 2013; 加藤 2016). 2015年12月8日、環境省はそれまで確認していた個体を防除したことから特定外来生物カナダガンを国内で根絶したと発表した (環境省 2015) が、防除した個体以外にも外来亜種のオオカナダガンがまだ野外に少数いる可能性は捨てきれず今後もモニタリングを継続する必要がある (加藤 2016) とされ、野外で種カナダガンを観察した場合、この外来亜種のオオカナダガンや飼育下で逸出したカナダガンとの判別が必要となる。しかし本個体が飛来した2015年10月から翌年にかけて、飼育個体が逸出したという報告は環境省自然環境保護局野生生物課へ届いておらず、北海道でカナダガンを飼育している帯広動物園からも逸出していないと回答があった (環境省自然環境保護局野生生物課 私信; 帯広動物園 私信)。

環境省関東地方事務所野生生物課は、2015年11月25日に福島潟に飛来していたシジュウカラガンより大型のカナダガン1羽について、確認のうえ写真撮影しており、この個体は外来亜種のオオカナダガンではなく「迷鳥」と判断し捕獲しなかったとのことであった (環境省関東地方事務所野生生物課 私信)。

以上のことを総合的に考えて、本個体は飼育下の逸出個体あるいは野生化した外来亜種のオオカナダガンではなく、チュウカナダガンの自然渡来である。

本稿をまとめるにあたり、匿名の査読者2名と編集委員の渡部良樹氏には様々な助言をいただいた。牛山克巳氏、井川マリジョ・浩氏、富士元寿彦氏、水の駅

「ビュー福島潟」の諸氏には各地の観察情報を提供いただいた。加藤ゆき氏には富士山周辺に生息する外来亜種のオオカナダガンと福島潟へ飛来したカナダガンについてご教示いただいた。嶋田哲郎氏、神山和夫氏、谷岡隆氏には諸々の文献を提供いただいた。環境省自然環境保護局野生生物課、環境省関東地方事務所野生生物課および帯広動物園の皆様にはカナダガンの飼育個体や飛来個体についてご教示いただいた。この場を借りて深く感謝申し上げる。

引用文献

- Crochet P-A, Raty L, De Smet G, Anderson B, Barthel PH, Collinson JM, Dubois PJ, Helbig AJ, Jiguet F, Jirle E, Knox AG, Le Maréchal P, Parkin DT, Pons J-M, Roselaar CS, Svensson L, Van Loon AJ & Yésou P (2010) AERC TAC's Taxonomic Recommendations. July 2010. (online) <http://www.aerc.eu/DOCS/AERC%20TAC%20recommendations%20July%202010.pdf>, accessed 2017-9-19.
- Dunn JL & Alderfer J (2011) *National Geographic Field Guide to the Birds of North America, 6th edition*. National Geographic Society, Washington, D.C.
- Ikawa M & Ikawa H (2011) The Record of a Probable Wild *Branta canadensis parvipes* from Japan. *J Yamashina Inst Ornithol* 43: 47-56.
- 池長裕史・川上和人・柳澤紀夫 (2014) 日本鳥類目録改訂第7版で「検討中」とした種および亜種について. *日鳥学誌* 63: 134-149.
- 神奈川県自然保護協会 (2013) シジュウカラガン2亜種の分布と野外での適正管理に関する活動. スワ出版, 小田原.
- 環境省 (2015) 特定外来生物カナダガンの国内根絶について (お知らせ). (オンライン) <http://www.env.go.jp/press/101789.html>, 参照 2016-10-10.
- 加藤ゆき (2016) 根絶なるか? 特定外来生物カナダガン. *自然科学のとびら* 22 (2): 12-13.
- 黒田長久・森岡弘之 (監修) (1980) 世界の動物 分類と飼育 (ガンカモ目). 東京動物園協会, 東京.
- Madge S & Burn H (1988) *Waterfowl. An Identification Guide to the Ducks, Geese and Swans of the world*. Houghton Muffin, Boston.
- 水の駅「ビュー福島潟」(2001) 福島潟〜カムチャツカ2400 kmの旅. ビュー福島潟, 豊栄.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.
- Reeber S (2015) *Wildfowl of Europe, Asia, and North America*. Cristopher Helm, London.
- 電子付録1. 宮島沼で観察されたカナダガン (2015年10月10日, 撮影: 牛山克巳).
Supplement 1. Canada Goose with Greater White-fronted Geese, Miyajima-numa, Hokkaido, on 10 October 2015. Photographed by K. Ushiyama.
- 電子付録2. サロベツで観察されたカナダガン (2016年5月3日, 撮影: 富士元寿彦).
Supplement 2. Canada Goose with Bean Geese, Sarobetsu, Hokkaido, on 5 May 2016. Photographed by T. Fujimoto.
<http://doi.org/10.3838/jjo.67.143>